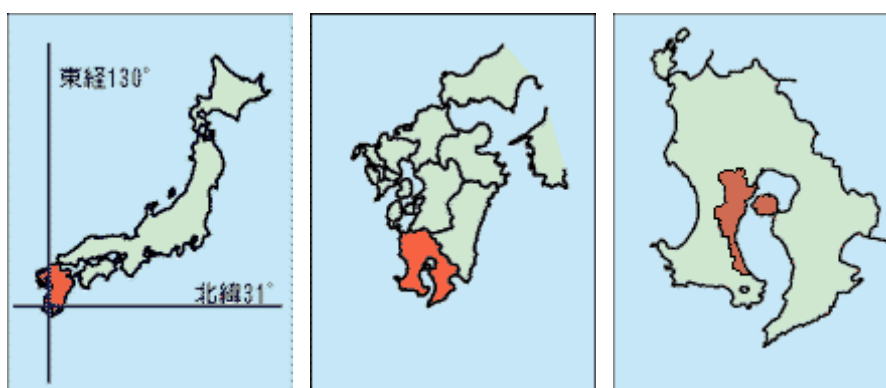


事例番号 148 社会実験でアメニティ空間づくり(鹿児島県鹿児島市・天文館中央地区)

1. 背景

鹿児島市は、鹿児島県の県都、南九州の政治・経済・文化・情報等の中心として発展を遂げ、1996(平成 8)年には中核市に指定されている。また、明治維新の偉人輩出、ザビエル上陸などの歴史・文化遺産や、世界有数の活火山桜島、静穏な錦江湾、温泉など豊富な地域資源を持つアジアに開かれた国際観光都市でもある。広域高速交通体系の整備も進みつつあり、2004(平成 16)年 3 月には九州新幹線鹿児島ルートが部分開業した。産業は、サービス業、流通業など第 3 次産業の占める割合が極めて高く、就業者数で全体の 8 割、純生産で 9 割を超えている。2004(平成 16)年 11 月に隣接する 5 町と合併し、人口は約 60 万人、面積は約 546.80k m²となっている。



鹿児島市の位置 (資料:鹿児島市ホームページ)

全国的に中心市街地の衰退・空洞化という問題が深刻化している中、鹿児島市の中心市街地においても、周辺部における商業施設の立地やモータリゼーションの進行などの影響はあるものの、地形的に集約型の都市構造となっていることや、「中心市街地活性化基本計画」に基づいた事業の推進などにより、計画策定前の中心市街地の人口減、小売業の年間商品販売額の減少傾向に歯止めがかかり、それぞれ増加傾向に転ずるなど再び活力を取り戻しつつある。

しかし、近年の中心市街地、なかでも鹿児島県随一の中心市街地である天文館地区に関しては環境の改善が求められており、消費者ニーズの高度化・多様化に加えて、新幹線全線開業に向けて本格化する都市間競争を目前に控え、早急に何らかの対策を講じなければ対応手段を失いかねない状況となっている。

多様な顔を持つ天文館地区の求心力を保つためには、道路等既存施設や資源の有効活用・改良などにより、来街者が歩いて楽しいハイアメニティな道路空間づくりや街区連携を図り、それを継続できる体制を確立する必要がある。また、商店街の個店が主体的にセール等を実施し、個店と道路空間が一体となった“新たなにぎわい空間”を創出することで、まちづくりと個店の販売促進の融合を目指すことも課題となっている。

これらの課題に対しては、TMO 構想においても「環境美化の推進」、「街路空間のアメニティ向上」、「亜熱帯性樹木・花の植栽」、「休憩スペース、トイレなどの整備」がプロジェクトとして位置付けられた。そして、これら来街者のアメニティの向上に資する道路空間の多面的な活用、魅力ある

歩行空間創出の取組みの有効性を検証するため、2004年度、2005年度の2カ年にわたって社会実験が行われた。



天文館地区の位置とハード事業の位置

(資料:鹿児島商工会議所 中小企業振興部 商工専門センターホームページ)

2. 目標

「第4次鹿児島市総合計画」(2002～2011年、10ヵ年計画)は、目指す都市像を「人とまち 個性が輝く 元気都市・かごしま」としている。

中心市街地に関しては、「中心市街地活性化基本計画」を1999(平成11)年5月に策定し、「ハード、ソフトの両面から、すべての人々をあたたく迎える消費者や生活者の視点に立ったホスピタリティあふれるまちを目指す」とし、活性化の基本的方向として、①南の交流拠点都市のコア(核)としての機能強化、②南九州の経済拠点としての魅力アップ、③生き生きとしたバリアフリーのまちの形成、を掲げた。

2001(平成13)年3月には鹿児島商工会議所を中心に「TMO構想」が策定された。TMO構想では、天文館地区について「南の魅力多彩・にぎわいの街 天文館」というコンセプトを掲げ、「魅力ある多彩な都市機能・都市空間の集積促進を目指す」とした。

こうした目標に向かって、来街者のアメニティの向上に資する道路空間の多面的な活用、魅力ある歩行空間創出の取組みの有効性を検証するものとして、2004年度、2005年度の2ヵ年にわたって社会実験が行われた。

3. 取り組みの体制

「天文館中央地区アメニティ空間づくり運営委員会」が設置された。会は、中央地区商店街振興組合連合会、照国表参道商店街振興組合、天神おつきや商店街振興組合、天文館にぎわい通商店街振興組合、中町コア・モール商店街振興組合、鹿児島商工会議所(鹿児島市TMO)、鹿児島国道事務所、鹿児島市で構成される。

4. 具体策

天文館地区はアーケードの整備により、連続した広域的なショッピングモールとして多彩な顔を持っている。そのアーケードと道路等既存施設を有効に活用して、来街者が歩いて楽しいハイアメニティな道路空間づくりや街区連携を図り、さらには個店と道路空間が一体となった“新たなにぎわい空間”を創出するため、国土交通省の採択を受けて、2004(平成16)年度と2005(平成17)年度に道路の社会実験「アメニティ空間づくり事業」を実施した。

(1) 具体的な改善目標・施策のねらい

① 改善目標

天文館地区の商店街における、にぎわい空間づくりに資するイベント等の継続的な実施に向け、その体制づくり(行政、TMO、商店街、個店の役割・責任分担)、イベント空間の創出方法、イベント(道路空間の活用方策の可能性)等のあり方を検証、課題解決を図り、街路の活用による街なかの活性化、都市再生を図る。

② 施策のねらい

1) 道路空間の活用による地域(商店街等)とTMO及び行政との連携

イベント等を実施する際の地域の連携、資金調達、道路使用の調整等の仕組みについて整理し、地域主導のイベントにするための官民の役割、責任分担のあり方を検証する。

2) 道路空間活用(にぎわい空間創出)

一時的に歩行空間内に、にぎわい空間の創出に資する設備等を設置する際の来街者の滞留時間への影響や商店街内の店主の意識への影響などについての情報を収集し、その評価を総合的に検証する。

3) 資金調達・収益の還元

調達した資金の一部、道路活用による様々な収益方法を確認し、その収益の一部を道路のマネジメントに活用する仕組みづくりを検討し、提案する。

(2) 実験実施体制

実施主体	天文館中央地区アメニティ空間づくり運営委員会
実施機関	(委託団体)中央地区商店街振興組合連合会 (実施箇所) 照国表参道商店街振興組合 天神おつきや商店街振興組合(びらもーる) 天文館にぎわい通商店街振興組合(にぎわい通り) 中町コア・モール商店街振興組合
調整支援	鹿児島商工会議所(TMO)、国土交通省鹿児島国道事務所

(3) 実験概要

実施地区	鹿児島市天文館中央地区(国道 225 号沿いその他)
試行期間	2004(平成 16)年度 9月4日(土)～11月7日(日) 土日祝日のみ計 24 日 2005(平成 17)年度 10月22日(土)～11月20日(日) 計 30 日間(連日開催)
主な事業	2004(平成 16)年度は下記の事業項目①～⑥を実施し、2005(平成 17)年度はそれらの事業に加え⑦子育て交流事業及び⑧商店街サポーター育成事業といった NPO 団体や地域住民等との連携による商店街活動に新たな可能性に着目した取組みを企画し、実施した。

<2004 年、2005 年の事業項目>

- ① かがしま観光 PR 事業
- ② オープンカフェ・ワゴンセール
- ③ イベント
- ④ ワゴンセール・貸しスペース事業
- ⑤ 花と緑いっぱい事業
- ⑥ 街なか案内・道路清掃パトロール
- ⑦ 子育て交流事業
- ⑧ 商店街サポーター育成事業

実施地域の概要図

県を代表する中心街であるが、ニーズの多様化で求心力に陰りが見え始めており、早急な対応が必要

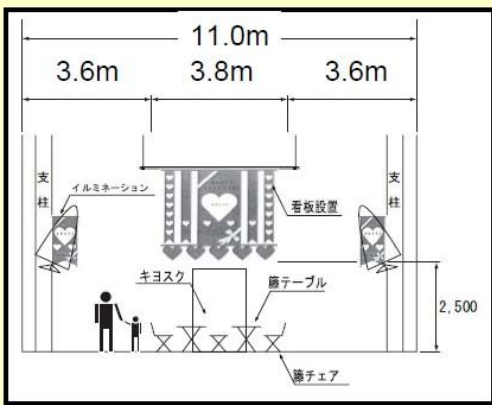
中町コア・モール

中央公園横

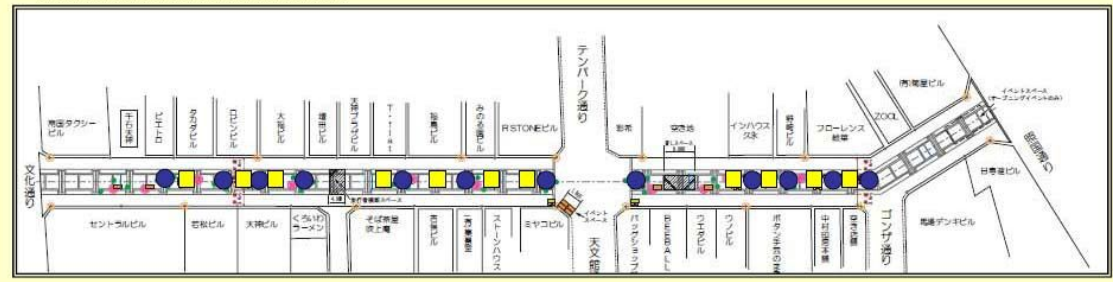
ぴらもーる

照國表参道

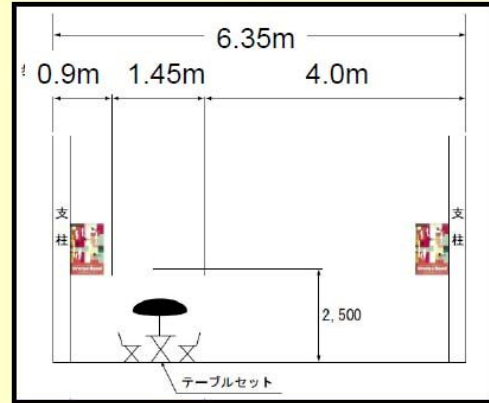
実施道路の概要図(ぴらもーる)



- :ワゴン、キオスク
- :テーブル、チェア

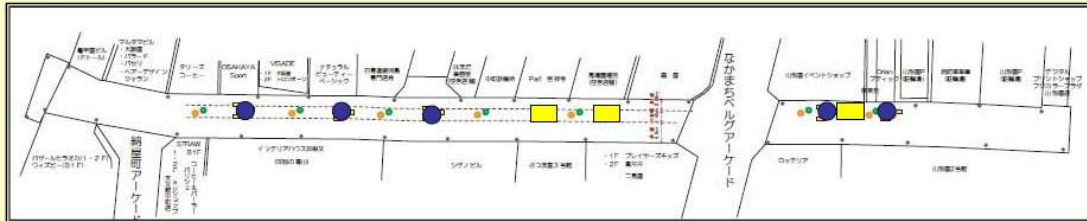


実施道路の概要図(中町コア・モール)



■ :ワゴン、キオスク

● :テーブル、チェア



社会実験実施状況



アーケード内のオープンカフェ(ぴらもーる)



道路脇緑地でのオープンカフェ(中央公園横)



かごしま観光PR(照国表参道)

- 土日を中心に来街者の滞在時間が延長
- 利用者から恒常的に取り組んでほしいとの意見が多い
- 子供達が商店街で絵を描く企画等、来街者と商店主のコミュニケーションのきっかけにもなった。

(資料) 国土交通省道路局ホームページ(以上4枚)

天文館中央地区アメニティ空間づくり社会実験～道路空間の新たな活用による中心市街地の再生～(鹿児島県鹿児島市)

平成16年9月4日(土)～11月7日(日)までの土日祝日の24日間

●鹿児島市の中心市街地において、地域の賑わいづくりと、道路の維持管理における官民役割分担を検討するため、オープンカフェ、イベント、道路清掃パトロール、花いっぱい活動を実施し、その有効性や課題について検証



琴の演奏イベントとオープンカフェ (びらもーる)



移動型ワゴン販売のパン店舗 (びらもーる)

平成16年度広報チラシ



オープンカフェ風景

- ・藤テーブル10台、椅子30脚、木製テーブル2台、椅子8脚、和テーブル4台
- ・来街者にゆっくりと寛いでいただく為、テーブルセットにパラソルを10個設置。



コンサート風景



ハロウィンイベント

(資料) 社会実験報告書

天文館中央地区

アメニティ空間づくり

期間限定!!

10/22(土)▶▶▶11/20(日)

国土交通省道路の社会実験

道路空間の新たな活用による中心市街地の再生



実験実施地域 鹿児島市天文館中央地区

裏面地図参照

実験実施箇所 照国表参道、ぴらもーる、中町コア・モール、中央公園横

実験日・期間 平成17年10月22日(土)~11月20日(日)

実験実施時間 11:30~19:00

平成17年度広報チラシ

(4) 社会実験に対する評価

① アンケート等調査の実施

歩行者通行量調査、来街者ヒアリング調査、商業者アンケート調査及び関係者アンケート調査を実施した。来街者や商店主から見た取組みへの評価は高く、歩行者通行量は事前調査に比べて1.1～1.2倍の増加、来街者の滞在時間は平均30分の増加となり、継続的な実施の要望が高かった。ただし、各商店の売上向上に対しては、「変化なし」の意見が約7割を占めて評価が低い。本実験に対する周辺地域の評価は高かった。

官民協働(道路活用)の有効性については、来街者・商店主からの評価は高く、各種の許可が円滑に行われるという効果があり、また、複数の商店街での取組みは高い相乗効果があり、新たな街づくりを行う上で非常に有効であると評価された。

街づくりの有効性については、通行量が増加し、滞在時間も延長しており、また、回遊性の向上にもつながり、評価は高い。

② 事業の効果

オープンカフェは、土日を中心に来街者に休憩スペースとして活用され、滞在時間の延長につながるるとともに、従来少なかった通り客とのコミュニケーションも増え、吊り看板、フラッグ、照明などによる通りの装飾は、幻想的な雰囲気演出し、集客に貢献した。

毎週末を中心に常に何らかのイベントを開催することで来街者の期待感が高まり、にぎわい創出も促進された。

さまざまなソフト事業による情報発信を続けたことは、「元気な中心市街地」を市民に広くアピールできた。

(5) 事業の課題・反省点

今後、自己財源で恒常的に実施していくにあたり、実験結果を踏まえた収益創出の仕組みづくりが必要である。自主運営で継続するには、道路の使用形態に一定の“秩序”が不可欠であり、商店街、出店者、関係機関、来街者の十分な理解と合意を得られる運用ルールを作成する必要がある。

5. 特徴的手法

天文館中央地区の「賑わいの創出」に向け、道路空間においてオープンカフェ、イベント等の継続的な実施に向け、体制づくり、イベント空間の創出方策、イベント等のあり方を検証し、課題解決を図り、街路の活用による街なかの活性化、都市再生を図る目的で本実験を実施した。官民協働で実施した運営体制は、各種許可申請の効率的な実施の面で有効であった。

6. 課題

イベント経費は出店料だけでは不足するため、各通りでの相当額の負担が発生する。これらの対策を検討することが必要となる。オープンカフェやワゴンセールは採算に乗らない店舗が見られたため、業種・業態・規模等を勘案した出店者の選定が必要である。

道路占有許可や道路使用許可、食品営業許可を得るにあたって、他地域にも適用できる統一した基準《ガイドライン》づくりを検討することが課題となっている。

今後とも、地域・TMO、行政が連携して継続的な道路使用、占有許可等が得られる仕組みと、道路活用による様々な収益方法を確認するとともに、その収益の一部を道路マネジメントに活用する仕組みを構築する必要がある。

(参考・引用文献)

「天文館中央地区オープンカフェ等社会実験による新しい道路空間の活用」(鹿児島県国道事務所管理第一課河野久他)

ホームページ「社会実験の推進」-国土交通省道路局-『天文館中央地区アメニティ空間づくり社会実験』の実施結果